

## 1.調査目的等

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期指標】

令和6年度の全国学力学習状況調査の標準化得点：国語101 算数102

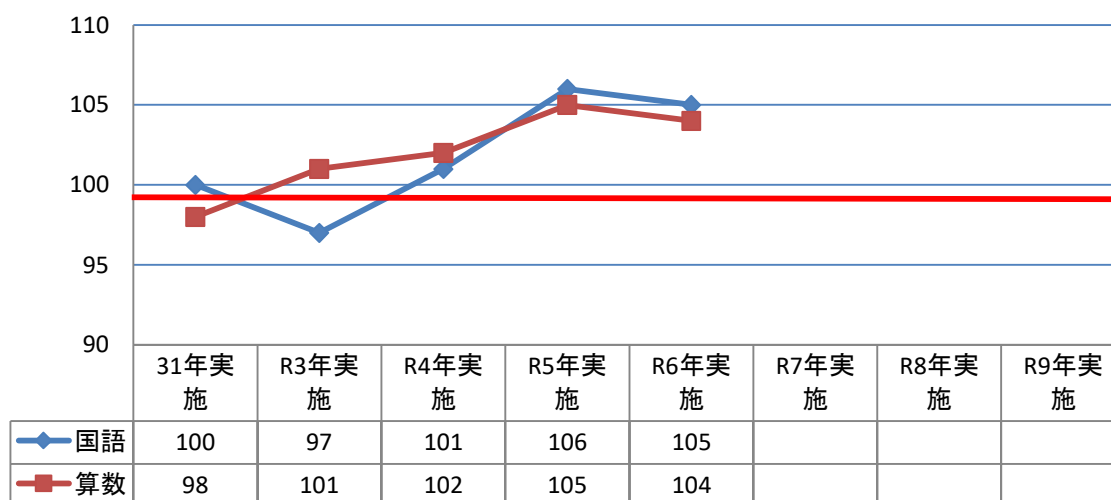
## 3.指標に向けての取組

- ・ねらいを明確にした授業づくりの実施（指導→評価→次の指導）
- ・算数科における重点単元の設定および、複数体制による習熟・補充学習の実施
- ・朝の活動における、複数体制による取組（未来への一歩、MIM、読解問題）
- ・家庭との連携による学年・個に応じた家庭学習の習慣化

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	105	104
嘉麻市	97	99
全国	100	100

## 推移



## 5.各学校における分析

- ・国語・算数とも全国平均を上回ることができた。算数科においては、重点単元での習熟度別学習、朝の算数タイム、補充学習等に担任外教員も活用して、複数体制での指導をはじめ、組織的に指導にあたった成果だと考えられる。国語科においては、読解タイムの設定や書く活動を取り入れた授業改善の成果が少しずつ表れていると考えられる。
- ・国語、算数ともに「条件に合わせた記述」に課題があるので、「書く活動ポイント9」を確認し、字数を制限して書くなど、目的、内容、思考方法を意識させて、学年に応じて書く活動を取り組んでいく必要がある。
- ・R5県の学力調査時より、CD層の児童が減少傾向にある。今後も、細かな実態把握と個に応じた指導を継続する必要がある。

## 6.各学校における今後の取組

- ・算数科重点単元における習熟度別指導
- ・算数科授業における全時間全学年複数体制の実施
- ・児童が目標をもって主体的に学習に取り組める場の工夫と、個に応じた指導の強化
- ・担当教員によるCD層の児童を対象とした補充学習の充実
- ・ぐんぐんタイム、MIMタイムにおける複数体制による指導の充実
- ・形成プリント、未来への一歩などの活用による習熟
- ・チャレンジタイム(読解問題プリント)を活用した読み取る力の向上
- ・条件に合わせて書く活動の設定

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
  - ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIドリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。  
また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。
  - ◆学力向上検証委員会を開催し、単元や学習のまとまりを単位とした学習状況の把握と個に応じた指導の工夫を推進する。そのために、各学校においてトリプル80の視点から評価を実施するとともに、学力向上検証委員会において、授業づくりや学力向上の取組に対する組織的な評価・改善の在り方について指導する。